

(3) 漁業の生産性向上

① 増養殖

プロジェクト ホタテガイ300億円産業の恒久化

目標

- ・ 陸奥湾でのホタテガイ生産額 R4：155億円 → R10：100億円以上の維持
- ・ 陸奥湾でのホタテガイ生産量 R4：77,991t → R10：90,000t
- ・ 親貝保有枚数 R4：1億枚 → R10：1億4,000万枚

挑戦する内容

- ・ 環境変化に対応した新たな養殖技術の開発
- ・ 持続可能な安定生産に向けた親貝づくり体制強化
- ・ 陸奥湾ホタテガイ産業の将来についての検討
- ・ 陸奥湾大型ホタテガイの販売促進

関係者の声
= 対話

- ・ 親がいなければ産卵しないので、親貝確保が第一の問題（漁業者）
- ・ 安定採苗のための親貝の下限保有数量の設定が必要（漁業団体）
- ・ 安定採苗が喫緊の課題（産技センター）

役割分担

- ・ 漁業者：適正な養殖管理と親貝の保有
- ・ 漁業団体：漁業者への指導
- ・ 産技センター：採苗及び養殖管理に係る調査、試験
- ・ 県：総合戦略チーム運営、施策立案

変革後の姿

- ・ 養殖技術の向上によりへい死が減少して生産量が安定
- ・ 親貝づくりにより親貝からラーバへ、さらにラーバから親貝に至る再生産サイクルの安定による持続可能なホタテガイ養殖産業の確立
- ・ 陸奥湾ホタテガイ総合戦略に基づき、生産から加工、販売まで、計画的に取り組むことにより、ホタテガイ300億円産業として恒久化

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 環境変化に対応した新たな養殖技術の開発
 - ・ 採苗不振メカニズムの解明と効率的な採苗技術開発のための採苗器の設置位置別付着状況調査を実施
 - ・ 高水温等の環境変動に対応した稚貝及び成貝の成育試験を実施
 - ・ 高水温時の養殖施設の管理方法の検討
 - ・ 付着生物のラーバ発生状況調査
- 2 持続可能な安定生産に向けた親貝づくり体制強化
 - ・ TASC制度や養殖工程の見直し等に関する検討会を開催し、親貝づくり体制を強化
- 3 陸奥湾ホタテガイ産業の将来についての検討
 - ・ 科学的知見に基づいて現状把握するとともに長期的な視点から海洋環境の変化に対応するための選択肢を検討するため、「陸奥湾ホタテガイ産業のあり方検討会」を開催
 - ・ 構成員の意見を踏まえながら「陸奥湾ホタテガイ総合戦略」の改訂も視野に陸奥湾ホタテガイ産業の方向性について議論
- 4 陸奥湾大型ホタテガイの販売促進
 - ・ 専門家との連携による大型ホタテガイのハイブランド化活動の展開
 - ・ 将来を見据えた大型ホタテガイ加工品の研究開発

1～3【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】東青地域

対話

- ・ 漁業者を対象として、高水温対策の普及（6～7月、8～9月）
- ・ 部会を開催し、プロジェクトの進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・ 陸奥湾ホタテガイ産業のあり方検討会を複数回開催し、構成員の意見を基に陸奥湾ホタテガイ総合戦略の改訂（10月）
- ・ 漁業団体、試験研究機関及び県で親貝確保や稚貝の融通等の体制について検討（随時）



養殖工程見直しに関する検討会



陸奥湾ホタテガイ産業のあり方検討会